

# アルビノのバンドウイルカ「スピカ」

2015年3月10日



## くじらの博物館にやってきた「スピカ」

搬入日: 2014年1月18日 搬入時の大きさと年齢  
性別: メス 体長: 約2m 体重: 約100kg  
愛称: スピカ 推定年齢: 1歳

愛称は、おとめ座で最も明るく白く輝く星「スピカ」(日本では真珠星と呼ばれています)から、飼育担当者が命名しました。

2014年1月18日、くじらの博物館に大変珍しい全身白色のバンドウイルカが搬入されました。このイルカは全身の色素が無い「アルビノ」と考えられ、飼育を通じた研究が行われる事になりました。「アルビノ」は遺伝子の異常でメラニン色素を作ることができないため、多くのハンディーがあり、自然界での生存率は低いと言われています。

現在遺伝子の調査が行われています。



体の特徴



口の中



噴気孔の中



目



尾びれ

※目や皮ふ、口内などは血管が透けて赤く見えます。



# アルビノのディメリット

## 紫外線は大敵！

生き物が持っている色素には、その動物が生きていく上でとても重要な役割があります。その1つが、有害な紫外線(特にUV-Bという皮膚がんの原因になる紫外線)から体を守ることです。

通常はメラニン色素があるおかげでこの紫外線から守られていますが、アルビノの場合はそれができません。最近ではオゾン層の破壊で地表に届く有害な紫外線が増えています。アルビノにとっては重大な危険がはらんでいるのです。また、そのために皮膚がんになりやすいとも言われています。

表皮にメラニン色素を持つ通常のバンドウイルカ(右)とアルビノのスピカ(左) →



← 紫外線の影響を少なくするため、天幕のついたマリナリュウムの大水槽で飼育されています。

## 視力が弱い？

メラニン色素は目の中にもあり、瞳孔の形や大きさを変えることでサングラスをかけるように必要のない光をカットしたり、ものをはっきりと見やすくするために重要な役割をしています。しかし、アルビノでは光をカットする色素がないため、光が全部目の中に入ってきます。そのため、曇りの日でもとてもまぶしくて、ものが見えにくいとされています。



暗い時 ← → 明るい時



↑カマイルカのU字型の瞳孔

↑ イルカの瞳孔は、周囲が暗い時は丸いですが、明るい時にはU字型になります。上図の暗色の部分がメラニン色素ですが、アルビノでは色素がないため、瞳孔の形を変えても光をカットすることができません。



↑ 搬入後「スピカ」は屋外のプールで他のバンドウイルカと飼育していました。明るい日中にはほとんど目を開けることが無く、朝夕や夜間に目を開けていることが分かりました。



↑ 天幕があり、直射日光がささないマリナリュウムの大水槽に移動してからは日中も目を開けるようになりました。



# 「スピカ」の今とこれから

アルビノのイルカを飼育した報告は、バンドウイルカ(アメリカ)の1例しかありません。現在、当館で飼育しているアルビノのバンドウイルカは、世界で2例目という、とても貴重な例になります。



## ←体温測定

訓練で体温測定をしたり、採血動作などができるようにすること(受診動作)は、飼育上とても重要な訓練です。



## ↑採血

現在「スピカ」の血液や皮膚片から、正常な個体とのDNAの違いを調査しています。



これからも貴重なアルビノの個体の飼育を継続し、イルカのアルビノの学術研究を進めていきます。